

第79回 大分県畜産共進会  
審査報告

平成30年11月

大分県畜産共進会事務局

# 審 査 講 評

第79回大分県畜産共進会  
肉牛の部（平成30年10月6日）

第79回大分県畜産共進会、肉牛の部の審査が皆様のご協力により無事終了したことに對しまして、審査委員を代表して心からお礼を申し上げます。

枝肉の審査につきましては、（社）日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格を基準として行いました。

まず、黒毛和種去勢牛ですが40頭の出品がありましたが、2頭は枝肉重量が基準に達していなかったため参考出品となり、計38頭で審査いたしました。

38頭の平均値は、A率89.5%、枝肉重量502.4kg、ロース芯面積66.0cm<sup>2</sup>、バラの厚さ8.3cm、皮下脂肪の厚さ3.1cmでした。枝肉重量、ロース芯面積、バラの厚さは昨年度よりもよい成績でした。

次に肉質ですが、4・5率は92.1%、BMS Noの平均は7.3でした。これは昨年の97.5%、BMSナンバー8.6に比べ、やや低い結果となっています。

この中から、最優秀賞は出品番号25番の宇佐市、株式会社大分県畜産公社宇佐牧場さんに決定しました。

成績については、枝肉重量が610.5kg、ロース芯面積は83cm<sup>2</sup>、バラ9.2cm、皮下脂肪3.5cm、BMS12で、本日出品の中で枝肉重量が最も大きく、ロース面積もトップクラスで、ロース芯や周囲筋に

サシが非常によく入っていました。また、枝肉のバランスも良く、光沢は最高の評価をしています。

以上のことから、審査員満場一致で最優秀賞とさせていただきました。

また、出品番号30番は、最優秀賞に劣らず、非常に素晴らしい枝肉でしたが、瑕疵を考慮し、残念ながら、今回の順位といたしました。

次に、2区の交雑種去勢牛は10頭の出品でした。

10頭の平均値は、枝肉重量562.5kg、ロース芯面積58.6cm<sup>2</sup>皮下脂肪3.6cm、BMS No4.2で、いずれも昨年度よりやや低い数値となっています。

そうした中で、今回の最優秀賞は、出品番号46号の豊後高田市、株式会社真玉キャトルファームさんに決定いたしました。

この枝肉は枝肉重量629.4kg、ロース芯面積64cm<sup>2</sup>、バラ9.0cm、皮下脂肪4.0cm、BMS ナンバー7でした。

本日の出品牛の中では BMS ナンバーが最もよく、ロース芯は小ザシで、まんべんなくきれいに入っており、審査員全員で最優秀賞といたしました。

全体的に昨年に比べまして、黒毛和種・交雑種いずれもやや肉質の格付け値が低くなっており、今後とも一層の技術向上に努めていただきますようお願いして審査講評といたします。

本日はどうもありがとうございました。

平成30年10月6日

第79回大分県畜産共進会 肉牛の部

審査委員長 河野 宣彦



## 第 79 回大分県畜産共進会 肉用牛の部 審査講評

それでは本日のグランドチャンピオン決定に至る経過について審査講評をいたします。

各区の首席の牛が揃えられ、本共進会の成果として非常に素晴らしいものが選ばれたと思っております。グランドチャンピオン賞の 46、47 号牛のセット、九州農政局長賞の 15 号牛につきましては、特に素晴らしかったのでそれぞれを選定させていただいております。

ここでまず、第 11 回宮城全共におきまして少し話をいたします。

当県が宮城全共で、種牛性に優れた牛を全国の人に展示した影響は非常に大きかったと自負しております。そして現在、各県において第 11 回の成果を 12 回の鹿児島全共に繋ぐと言うことで発育・体積を維持しながら、さらに種牛性の改良を一層進めると言う形で全国の和牛の改良は進められようとしております。

そういった中で本日グランドチャンピオンに選ばせていただきました 46、47 号牛の農林水産大臣賞のセットにつきましては、まさにその体積を維持しながら種牛性の改良を一層進める母・娘のセットとして確認出来ました。

特に母親は玉吹雪（の子）、娘は光星（の子）ということで県有種雄牛の系統を引き継ぎ、母系とする地域の雌の系統も活かしながら共進会でその成果を確認できた、そういう意味において、本日の共進会の大きな成果でした。

そして第2区の若雌の区で九州農政局長賞を受賞されました15号牛につきましては、当県の種牛性、まさにその言葉通りの出品だったと思います。大分の特質すべき特徴である、輪郭鮮明さだけではなく、体上線の平直さ、肢蹄の強さなどを確認をさせていただきました。

今後、当県の改良の方向性として、この母娘のセットの種牛性、そして若雌としての品位、こういった部分をさらに磨き高めていくという意味で、それぞれ農林水産大臣賞・九州農政局長賞を選定させていただきました。

なお、今後の課題としましては、県有種雄牛がやや少ない点、そして全体的に資質に少しばらつきがあった点、また栄養状態において過肥と判断されたものが多く、体の締まりに惜しまれるものが散見された点は残念ではありましたが、目標とすべきそれぞれの素晴らしい点においてこういったものが選定出来た点は、非常に

良かったと思っております。

今後とも引き続き大分の特色をさらに磨きをかけて、また4年後の鹿児島全共に向けて、本日スタートとして頑張っていたいただければということをお願いいたしまして、この審査講評とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

平成30年10月14日

第79回大分県畜産共進会 肉用牛の部

審査委員長 河野 宣彦



# 審査講評

## 第79回大分県畜産共進会

### 乳用牛の部（平成30年10月25日）

平成30年10月25日に開催されました第79回大分県畜産共進会 乳用牛の部の審査結果をご報告いたします。

審査は日本ホルスタイン登録協会のホルスタイン審査標準とホルスタインのもつ優美性とともに関能性や将来性を加味したうえで審査させていただきました。未経産は月齢に應じた発育、骨格の正確性、肢蹄、また良好なコンディション、肋腹の状態、経産牛は更に乳器の質、関能性、品位、乳用性を念頭において審査いたしました。

【1部】多くの育成牛が出品されておりました。1位にしました108号においては、発育良好、品位に富み、肢蹄も良好、体長もあり肋腹もすぐれておりました。2位の103号も発育良好、肋の充実、肢蹄良子でありました。一位との差は乳用性、体長で1位の牛の方が優っていました。上位の牛はコンディションも良い状態でした、下位の牛はコンディション食い込み状態、飛節の状態の改善が望まれます。

【2部】授精間近と思われるクラスでありました。1位の白い牛201号においては、発育良好、若牛としての品位、骨格の正確性、スタイルに於いて優れていました。2位の206号の乳用性、肋腹の充実、背線の強さは評価いたします。

【3部】少頭数でしたが1位の黒い牛306号においては、乳用性に優れた力強い牛でした。体高、体長肋腹の充実、また背腰の強さも優れておりました。

【4部】妊娠も進み身体の充実した牛が出品されておりました。1位にしました401号においては、乳用性に富み、且つ高さと言長のバランスに優れ、肋腹も十分に発達しておりました。

【未經産最高位】

各部から2頭の計8頭で比較させていただきました。どの牛もこの場にふさわしい若牛達でした。その中で4頭を選出し4部の牛を最高位、1部の牛を準最高位にさせていただきました。4部の牛は乳用性、力強さ、品位に優れた素晴らしい牛でした。1部の若牛も4部に次ぐ乳用性、品位の優れた若牛でありました。

【5部】2才 Jr クラス三頭の出品でしたがいずれも2歳らしい良いクラスでした。1位およびBUの501号牛においては、抜群のスタイルと身体に見合った乳房バランス、頭から首、肩、尻の先まで輪郭鮮明でした。乳器においても乳頭配置、前乳房の付着も強く、後乳房も優れていました。2位の牛も鋭角的、乳用性に富んだ2歳でしたが乳器の幅、力強さや身体の充実具合で1位の牛の方が優位でありました。

【6部】2歳 sr クラス、2頭の出品でした。1位およびBUにしました601号の牛、身体の大きな牛ではありませんが、乳用性、品位、乳器の質、機能性に優れておりました。2位の牛も骨格の優れた力強い牛でしたが乳用性、乳器の機能性において1位の方が優っておりました。

【7部】3才クラス、全体的に乳用性に富んだ牛が多く出品されておりました。1位にしました705号の牛、乳用性、品位、輪郭の鮮明さ、乳器においても質の良いものでした。2位およびBUの牛は、力強い身体、肋腹の充実度、体長、乳器においてはこのクラスで前の付着、後乳房の高さ幅、乳頭配置において最も優れていたものでベストアダーとさせていただきました。

【8部】4歳以上クラス、多くの経産牛が出品され、また身体乳器の優れた牛が出品されておりました。1位およびBUにしました804号の牛、スタイリッシュで乳用性、強さ、乳器においても前の付着、後ろ乳房の付着点の高さ、乳頭配置サイズにおいて素晴らしいものを示しておりました。2位の牛も乳用性、輪郭鮮明、体長、乳器におきましても質感、前後の付着の強さは素晴らしいものを持っていました。1位と比べた時に乳頭のサイズ後乳房の幅において1位の方が優れている点で2位といたしました。7産している牛も出品されておりました、素晴らしい牛だと評価し敬意を評したいと思います。



【経産牛最高位】

各部からの8頭を比較させていただきました。その中から5部、7部、8部2頭の4頭を選出いたしました。8部の1位を最高位、2位を準最高位といたしました。最高位の牛は乳用性に富み乳器においても優れた機能性、付着点の強さを有しておりました。準最高位の牛も乳用性、乳器のすばらしさを有しておりました。5部の2才Jrの牛もスタイル、乳用性、乳器も優れておりました。準最高位との差は後乳房の付着点において準最高位の牛の方が優れておりましたが、将来性のある2歳である事は認めております。

結びに、本共進会乳用牛の部に出品いただきました出品者並びに県酪農協をはじめ各関係機関の皆様に改めてお礼と敬意を評したいと思います。

昨今の酪農情勢は飼養戸数、頭数が減少し生産基盤の脆弱化が進んでおり、厳しい情勢をなっております。このような中で53頭が出品され盛大に開催されたことに感謝申し上げます。

また、2020年10月に開催されます九州、沖縄ブロック全日本ホルスタイン共進会に向けて生産者並びに関係者一丸となって尽力いただきますようお願いいたしますして審査講評といたします。

平成30年10月25日

第79回大分県畜産共進会 乳用牛の部

審査委員長 茶園 崇史

